

1. 契約を記録する

アクタ: 営業

概要: パーティごとに、取引条件をあらかじめ登録しておく。

目的: 代金計算を取引先ごとにカスタマイズしたい。

事前条件: 取引条件を設定したいパーティがある。

事後条件: 契約がある。

基本系列:

- (1) アクタはこのユースケースを起動する。
- (2) システムは、契約種別、代金条項(丸め方法)、消費税条項(丸め方法、課税単位)の設定値の提示を求める。
- (3) アクタはそれらを提示する。
- (4) システムは妥当性を確認し、締結日、発効日を設定して記録する。

代替系列:

- (1) なし

備考:

- (1) 代金条項の設定値の検査条件はつぎのとおり。
丸め方法: “切り捨て”, “四捨五入”, “切り上げ” のどれかであること。
- (2) 消費税条項の設定値の検査条件はつぎのとおり。
丸め方法: “切り捨て”, “四捨五入”, “切り上げ” のどれかであること。
- (3) 丸め方法は、消費税の計算結果の 1 円未満の端数の扱いを決める。
- (4) (課税日の基準は、取引日とする。)

シナリオ

- (1) 当社は、
- (2) 営業の山田直子は、7 月 28 日、新たな取引先(麺屋海神)と取引内容を打ち合わせて、販売契約を締結した。代金条項の丸め方法は“切り捨て”, 消費税の丸め方法は“切り捨て”, 課税単位は“合計”であった。
- (3) 新たな仕入先(佐藤精肉)からチャーシューを仕入れることになった。山田直子は、取引内容を打ち合わせて、7 月 29 日、仕入契約を締結した。代金条項の丸め方法は“切り捨て”, 消費税の丸め方法は“四捨五入”, 課税単位は“明細”とした。

変更履歴:

- (1) 課税基準日を一律に取引日とし、選択肢がなくなって記述から削除。(13.07.29 児玉)

2. 注文を記録する

アクタ: 営業

概要: 取引先からの注文内容を基に、代金計算を行った上で妥当な注文を記録する。

目的: 適切に出荷し、代金を回収したい。

事前条件: 商品がある。商流勘定と代金勘定は、すでに存在している場合がある。

事後条件: 商流取引、商流移動がある。商流勘定がなかった場合は、それが新たに作られている。

これに関連して、代金取引、代金移動がある。代金勘定がなかった場合は、それが新たに作られている。

基本系列:

- (1) アクタはこのユースケースを起動する。
- (2) システムは、注文内容(取引種別[販売]、不課税取引区分、取引対象区分、商品、数、取引先、取引日)の提示を求める。
- (3) アクタはそれらを提示する。上記注文内容はすべて必須項目。
- (4) システムは、課税単位が“明細”の場合は、商流取引を作成し、商品ごとに商流移動を作成し、該当する商流勘定(パーティ×商品の関連)を検索(なかったら生成)し、そこへのリンクを付ける。次に、商流移動ごとに代金取引を作成し、代金計算(UC 2.1 代金を計算する)および消費税計算(UC 2.2 消費税を計算する)を行い、代金勘定(パーティ×勘定)を検索(なかったら生成)し、代金計算および消費税計算の結果に基づいて、代金移動(代金と消費税の 2 つ)、代金勘定へのリンクを作成する(修正の場合は上書き)。

課税単位が“合計”の場合は、商流取引を作成し、商品ごとに商流移動を作成し、該当する商流勘定(パーティ×商品の関連)を検索(なかったら生成)し、そこへのリンクを付ける。次に、代金取引を作成し、商流移動ごとに代金計算(UC 2.1 代金を計算する)を行い、代金:代金勘定(パーティ×勘定)を検索(なかったら生成)し、代金計算の結果に基づいて、代金移動(代金)を作成し、代金勘定へのリンクを作成する。最後に、代金の合計を導出して、消費税計算(UC 2.2 消費税を計算する)を行い、消費税:代金勘定(パーティ×勘定)を検索(なかったら生成)し、消費税計算の結果に基づいて、代金移動(消費税)の作成、代金勘定へのリンクを作成する。

この結果をアクタに提示して確認を促す。

- (5) アクタは確認する。
- (6) システムは商流取引(TEA)と代金取引(TEA)を永続化する。

代替系列:

- (1) 基本系列(5)でアクタが確認しない場合は、本ユースケースの実行過程で生成したインスタンスは消去(rollback)し、このユースケースを終了する。

備考:

- (1) 代金計算、消費税計算は円建て。
- (2) [販売]注文は販売契約に基づいて消費税計算を行う。按分率は省略する。
- (3) 代金計算で用いる科目は、商品代金:メモ勘定と消費税:メモ勘定とする。
- (4) 本実装では、内税計算をスコープ外とする。
- (5) 課税単位が「安い方」の場合は、両方のケースを行って消費税額の合計を比較して、安い方の代金取引(TEA)を記録する。
- (6) 商流移動で、バラの商品が複数個ある場合、代金計算は商品別の合計額を代金として扱う。

シナリオ

- (1) 営業の山田直子は、7月30日に麺屋海神から、鯛のアラ(課税品目)5.5キログラム(273円/キロ)とヒラマサのアラ(課税品目)8.3キログラム(126円/キロ)の注文を受け取り、販売取引、課税、社外取引として、その内容を記録した。代金計算の結果が、鯛のアラ 1501円、ヒラマサのアラ 1045円、消費税率は5%、販売契約に基づき消費税は127円と表示され、これが正しかったので確認した。

- (2) 営業の山田直子は、8月1日にも麺屋海神から、鯛のアラ5.5キログラムとヒラマサのアラ8.3キログラムの注文を受け取り、その内容を記録した。代金計算の結果が、鯛のアラ 1501 円、ヒラマサのアラ 1045 円、消費税率は 8 月 1 日から 8%になったので、消費税は 203 円と表示され、これが正しかったので確認した。
- (3) 8月2日になって、7月30日の注文に対し、鯛のアラが 5 キロしか納入できなかったことが分かったので、山田直子はマイナスの注文を入れることにした。鯛のアラ-0.5 キロを取引日 7 月 30 日で提示し、代金が-136 円、消費税額は-6 円と表示された。これは本来、赤黒で処理すべきであったことに気づき、キャンセルした。
- (4) 同日、山田直子はあらためて、7月30日の分の販売注文の赤を記録し、7月30日、鯛のアラ 5.0 キログラムとヒラマサのアラ 8.3 キログラムの販売注文(の黒)を記録した。代金計算の結果は、鯛のアラ 1365 円、ヒラマサのアラ 1045 円、消費税率は 5%, 消費税は 120 円と表示され、これが正しかったので確認した。

要検討事項:

- (1) 注文修正は赤黒ではなくて、改版方式(版番号が最大のものが生きているとする)のほうがいいか。→どちらでもいいが、代金取引は上書きとする方向で検討。(13.07.29 児玉)
- (2) マイナスの丸めは、絶対値でやると誤差が出る。ルールを決める必要がある。→やらない方向で検討。(13.07.29 児玉)

変更履歴:

- (1) 販売注文の修正の扱い方を変更。(13.07.29 児玉)

2.1 代金を計算する

アクタ:2. 注文を記録する

概要: 数量と商品単価から合計代金を計算し, 丸め処理をして返す。

目的:

事前条件: 契約がある。商品がある。

事後条件: なし(代金が返る)

基本系列:

- (1) アクタは商流移動を指定してこのユースケースを起動する。
- (2) システムは商流勘定経由で商品単価を検索し, 単価を乗じた結果を累積し, 契約の丸め方法の設定値に従って丸め計算を行って, アクタに返す。

代替系列:

- (1) 契約がないとき, 商品がないときの例外が発生したときは, 代金 0 円として返す。

備考:

- (1)

変更履歴:

- (1)

2.2 消費税を計算する

アクタ:2. 注文を記録する

概要: 消費税 Library から消費税率を得て, 取引プロフィールと代金に基づいて, 消費税額を計算し, 丸め処理をして返す。

目的:

事前条件: 契約がある。商品がある。

事後条件: なし(消費税額が返る)

基本系列:

- (1)アクタは商流取引, 代金, 税品目 A, 内税・外税の別を指定してこのユースケースを起動する。
- (2)システムは商流取引から契約を検索し, 取引日に基づいて, 消費税 Library から消費税率を検索し, 消費税額を計算した後, 契約の丸め方法の設定値に従って丸め計算を行って, アクタに返す。

代替系列:

- (1) 契約がないとき, 商品がないときの例外が発生したときは, 消費税 0 円として返す。

備考:

- (1) 内税計算の公式: XXXX
- (2) 国外取引は不課税で, 消費税額 0 円で返す。
- (3) 社内取引は消費税計算非対象で, このユースケースは起動されない(起動された場合は例外を返す)。

変更履歴:

- (1)